

令和4年7月20日

総務課長（公表所管課長）様

林業課長 酒井 淳二

## 会議要録

名 称	令和4年度第1回西予市次世代森林産業推進協議会	
事 務 局	西予市産業部林業課	
	電 話 0894-62-6493	
	F A X 0894-62-6571	
開 催 日 時	令和4年6月30日(木) 14:00 ~ 16:00	
開 催 場 所	ゆるりあん2階多目的室	
出席者	委 員	西予市森林組合代表理事組合長 藤中彰 他10名
	その他	愛媛県八幡浜支局森林林業課、西予市林業活性化センター
	事務局	西予市産業部林業課7名
役職者	会長 和氣 岩男 副会長 三瀬 逸雄	
<p>※読みやすさや分かりやすさを考慮し、発言の趣旨等を損なわない程度に整理しております。</p> <p>1 開会 2 産業部長あいさつ 3 協議事項 (1) 会長、副会長の選任について 会長：西予市産業部長 和氣岩男 副会長：株式会社エフシー 代表取締役 三瀬逸雄 (2) 令和3年度森林環境譲与税使途について (3) 令和4年度実施事業について 【事務局より説明】 令和3年度実施事業及び令和4年度事業について説明、自伐型林業や地域おこし協力隊制度について情報提供</p>		

	質疑応答
委員 A	<p>森林環境譲与税の用途について全国的に苦慮しているのではないかと（会検なども含めて）</p> <p>横浜などについては公共事業（建物）に木材を使うことぐらいしかできないのではないかと思います。西予市においてもハード事業（森林整備）にお金をかけていくべきではないか。素材生産量をあげるためには、何をしていくべきか。令和4年度の話はあったが令和5年度以降について、財産区などの森林については計画的に搬出していっているため、補助金の対象外になるということだと死活問題となる。県が補助金をだせないということなら、この現状に目を向けていただいて素材生産量を上げていくのには皆伐も必要だが、そこへの補助がない。その部分に対して補助金を出してほしい。林業を経営していく上で、行政にも努力をしていただけたら。</p>
会長	森林環境譲与税の使用についてご意見を。
委員 B	都市部（姉妹都市など）と連携してその都市部の譲与税を活用するという方法も考えられるのでは
事務局	東京都港区と協定を結んでいる。今後はそちらとも話を進めていく。
委員 C	港区では原材料のままではいけないのでは。製材として仕上げた状態でほしいと思われる。
事務局	おっしゃるとおりでありますので、再度港区と協議を進めていきたい。
委員 D	特用林産物（原木シイタケ）についても減少傾向にあり困っている。木材への補助などはあるのに林産物への補助なども考えていくべきではないか。
委員 E	山で働く方は貴重な存在である。防護服も高価なため貴重な人材をまもるという観点でそちらの補助をつくったらどうか。
事務局	担い手の事業などで現在そういった補助事業がある。
会長	様々なご意見をいただきありがとうございました。

委員 C	<p>色々な事業に分散していると一つ一つが薄くなってしまいうところもあるので、しっかりと判断していきたい。</p> <p>ウッドショックにより近年は良いが、平成 30 年以前の原木価格ではボランティア並みにしかない厳しい状況であった。結局補助金が入らないとやっていけない状況のところ新たに林業会社ができるということはないだろう。ウッドショックにより今は国産材へ目が向いているが、在庫が増えてきている。結局事業者側の目線（需要と供給）で施策を行っていかないと、うまくいかない。補助金ありきのやり方ではうまくいかないのでは。公有林（市有林）にしていって管理していけばよいのでは。</p>
委員 F	<p>安定供給について日ごろより願っているところであるがバランスの取れた循環型の林業を行っていくべきではないか。現在は間伐が中心となっているが、今後、その後は全伐しないといけなくなるのではないか。</p>
会長	<p>保育・植林なども同時に進めていく必要性を感じる</p> <p>安定供給を考えると植林と保育の必要性も感じるとのこと意見。</p>
委員 G	<p>林業に限らず人材不足が見受けられる、現在の林業従事者を他の業界へ流出することを食い止めるという部分にも森林環境譲与税を活用していただけたらと思う。</p>
委員 B	<p>森林環境譲与税について、別紙の株式会社中川の資料（育林に特化した会社）について読んでいただけたら。</p>
委員 H	<p>安定供給についてお願いできたらと考える。間伐及び皆伐についても必要なら補助を拡充してほしい。皆伐をするにはコストがかかるので。慢性的な人員不足が続いている。木育や林業教室にも今後力を入れてほしい。</p>
委員 C	<p>木材の安定供給が重要な課題である。今は単価が上がっているから潤っているが、この状況を続けていくように努力していくしかないのではないか。</p>
委員 E	<p>来年度から自分で自然林などの整備を計画している。西予市においてもそういった状況の管理を進めていってもらえないか。防護服への補助について 1 着 13 万 5 千円ほど費</p>

	用がかかる。担い手の安全を守るため譲与税の使用用途に含めてほしい。
委員 I	材の価格が同じであれば部分皆伐を行いながら生産していく方法はどうか。
委員 E	皆伐後、下刈りしてしまうと鹿被害が出てしまう。
委員 I	皆伐後の下刈りや鹿ネットなどの補助を拡充していくのが良いのではないか。
委員 B	今のところ間伐の推進を進めているが、今後どのような施策を推進していくかによって変化していく。
委員 E	鹿被害についてネットだけでなく様々な対策を検討して行ってほしい。
委員 G	皆伐した後はすべて植林の必要があるかというところをそうは考えない。実際に皆伐後 3 年ほどで十分な植生があった山もあった。今年はスギ、ヒノキは植えずにコウヨウザンを植える予定。
委員 D	シイタケ原木としての利用としてクヌギの皆伐後の下刈りの補助もあると山の再生に有効かと思う。
委員 C	(G 委員へ) 皆伐で儲かりましたか？
委員 G	(自己所有山林ではなく) 山も高く買っているんで、あまり儲かっていません。
委員 C	やっぱり儲かっていないと人が山に目を向けてくれない。 シイタケの価格の安定についても目を向けないといけない。
委員 A	丸太の価格の補助について、下がったものに対する補助を価格が上がっている現状で施策としてあげているのはおかしいのでは。山主さんは元(間伐材出荷補助)の補助を楽しみにしていた部分があった。
事務局	間伐材の補助については別事業として実施している。
委員 C	全体の意見を集約して予算の使い方を具体的に決めていく、予算配分をしていくべき。
会長	部会もあった方がよいという意見もあったが部会の活動についてご意見はありませんか。

委員 B	部会の活動についての報告があまりないので、中間報告などをしていただけたらよいのではないか。
事務局	昨年度まではコロナの影響により開催できていなかったが今年度については開催する予定があるため、中間報告についても検討していきたい。
委員 B	担い手について、実状は補助金ありきの支援になっている。 地域おこし協力隊として会計年度任用職員で雇っていただいて、原木市場で週 4 日働いていただくことなどが可能ならば検討していただきたい。
委員 I	西予市の森林解析情報について、どこまで公表して活用されているのか。
事務局	ICTの事業で整備しているクラウド型の森林GISシステムにて本庁、林業活性化センター、支所及び組合・エフシーで閲覧可能。 →組合・エフシーとは協定を結んでいるため
愛媛県	愛媛県内についても令和 3 年度に解析が終わった状況で、今後有益な利用方法について検討していく状況である。
委員 I	解析した情報が段々古くなっていくのでそのあたりご注意ください。
委員 C	逆にどのような施策があったら担い手が集まるのかということを自伐林家の方からご意見をいただけたら。
委員 G	情報の共有が大切。西予市内においても横のつながりが弱いのではないかと感じている。懇親会という形での意見交換も必要ではないか。
	<p><b>(4) 西予市森林産業についての提言</b></p> <p><b>【事前に依頼していた各委員からの提言発表】</b></p> <p>別紙をもとに討議。</p> <p><b>4 その他</b></p> <p><b>5 閉会</b></p>